

ベナンの風便り

2010年1月号

みなさん遅くなってしまいました、あけましておめでとうございます。年が変わり、ベナンでの生活も残すところ2か月をきってしまいました。現在は行っている活動をしっかりとした形で終えること、ベナン人だけでも一緒に行ってきたことを継続していけるようにすること、そして後からくる隊員が少しでも活動しやすい状況を残していくことを目標に頑張っています。さて、時間のできたときに大和中学校のホームページでみなさんの様子を拝見させていただくのですが、現在行われているエコキャップ運動で途上国の子どもたちにポリオワクチンを送ることができるということで、興味深く見させていただきました。「エコ」という言葉が世界的に使われる現在ですが、途上国の現状はどうなっているのでしょうか？

ベナンのエコ？事情

現在いたるところで3R、*Reduce* (リデュース、減らす)、*Reuse* (リユース、繰り返し使う)、*Recycle* (リサイクル、再資源化)、が叫ばれています、それは途上国であるベナンでも同じなのではないでしょうか？実際には現地の人々の生活では「減らす」ほどのゴミは出ません。ほとんどの物が量り売りですし(実際にはそれを入れるビニル袋のポイ捨てがゴミ問題となっているのですが・・・)、残飯等もその辺に捨てておけば家畜が食べるか、畑の肥料になります。「再資源化」と言ってもそれをする技術がありません。そう、途上国では世界的に3Rが叫ばれるよりずっと前から、使えるものはそのまま再利用しているのです。

例えば右の写真の生徒が飲んでいるもの。一見普通に缶ジュースを飲んでいるようですが、空き缶を洗ってそのまま利用して、そこ



に別の飲み物を入れて売られています。ペットボトルも同様で、ジュースを入れたり、パームヤシからとれる料理に使う油を入れたり、また灯油を入れたりして売られています。左の写真は学校での掃除風景ですが、ほうきとして使われているのはヤシの葉が乾燥したものを束ねたもので



す。またそのまま使わないにしても、右の写真のようにコーヒーの空き缶とピンの王冠、空き缶の切れ端を加工してアルコールランプのようなものを作って使われています。中に灯油を入れて使うのですが、これは夜の市場での明かりや、電気の通っていない民家の明かりとして重宝されています。再利用するのは遊び道具も同じ。子どもたちは古タイヤを転がして遊んだり、空き缶を太鼓代わりにして踊って遊んだりしています。



もちろん学校にも物が少ないので、理科の授業で作る懐中電灯や太鼓なども廃品を利用します。みんな普段からそういったことに慣れているせいか、うまく工夫して作りますよ。



ベナンで物の再利用を積極的にしているのは、環境のことを考えているわけではなく、物が少ないからなのですが、何でも簡単に買って捨ててしまう日本の生活を考えると果たしてどうなのかなってしまいます。いくら先進国でリサイクルをしているといっても、同じものを繰り返し使うことにはかきません。限りある資源が数十年後になくなってしまいかも言われていますが、その資源を日本をはじめとする先進国が無駄遣い？しているのが現状。そして先進国から排出される大量の排気ガスによって地球の温暖化が叫ばれています、その気候変動の影響を大きく受けるのは途上国の人たちなのです。つまり資源を利用した現在の技術の恩恵をほとんど受けることなく、そのしわ寄せばかりが途上国の人々の生活を圧迫するのです。便利になった現在の生活を戻すことは難しいのかも知れませんが、3Rを意識して生活することは先進国の人たちにとって最低限の責任なのではないかと思えます。世界中の人たちとは海を隔てていてもどこかにつながっています。みなさんの生活が途上国の人々の今後の生活を左右すると思って、自分たちの生活を見つめなおしていけるといいですね。

次号では大和中学校から寄付してもらったサッカーボールの行方について報告します。

ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>